

(団体名)NPO法人Switch

(事業名)『みやぎ高校生『絆力』向上プロジェクト』

		インプット	活動	アウトプット	アウトカム			
					初期	中期	長期	
生徒		Café事業、学外相談窓口機能の周知活動と利用募集 スタッフ 石巻・・・2名 仙台・・・2名	NOTECaféの実施 ※学内サードプレイスとしての機能+学校の進路決定のルールに乗れない生徒への伴走型進路決定支援、準備訓練(相談、SST、職業評価等) サードプレイスとして機能を持たせることで、何気ない会話から課題の小さなうちに発見・介入が可能 学校では拾いきれない中退予防 基本3校+スポット開催	モデル校への訪問 35回×3校=105回 Caféでの相談、訓練等 105回×平均3名=315名 生徒の進路決定 ・・・15名		学校と家庭だけの閉塞感から脱却することが出来、安心して進路に目を向けることができるようになる	地域での働くことを具体的にイメージできる若者が増える 地域との信頼関係を構築し、卒後の進“地元”の選択肢が増える	利用学生が地域の担い手になる 自己肯定感が高くなることにより、被災に起因するPTSD等の苦痛の軽減につながる
		モデル校の選定、選出 石巻2校(昨年度から継続)+他被災沿岸部1校	学外窓口の設置 学校内では拾い上げられない生徒の相談窓口として機能(学外のサードプレイス、インターン、職業評価等)	学外窓口での相談 1か所75件×2か所=150件	本来、進路決定が難しく高校卒業のタイミングで進路決定をあきらめてしまう生徒が減る	サードプレイスの存在に安心感を得られるようになる そのことで、子どもの抱える課題に対し、早期発見、介入が可能になる	課題に取り組んでいく過程で自己肯定感が高まる 生徒指導の方法の一つとして他機関との連携が増える	今まで対応の難しかった生徒の進路に希望を持つことが出来、他校と共有することで選択肢が増える
			定期的な情報共有	学校との情報共有の機会創出 1校2回×3校=6回 +必要に応じて実施	今まで対応したくてもしきれなかった生徒へのフォローにより教員の負担感減・肯定感増			被災により居場所を失った高校生が校内に、誰でも参加可能な居場所ができる(サードプレイスの拡大)
学校		地域のインターン先への事業説明 シンポジストへの依頼 シンポジウムの告知	活動報告、研修等発信 シンポジウム実施	地域の若者と関わる機会の創出(インターン等) 延べ30回 シンポジウム実施 対象:地域の支援者・学校関係者・保護者等 50名参加	様々な課題を持つ子ども、若者と接する機会が増え、興味関心が高まる	地域での就職者が出る 地域の中に見学、実習の受け皿等の社会資源が増える	被災地ならではの多様性を認めるような雇用の創出をすることで、人口流出が減り、人材不足の解消 関連団体が参入することで、より広い被災エリアにサードプレイス創出の活動が広がる	
地域								

※事業の成果に必要な要素を図示化してください。
 ※見やすいようにデザインを工夫してください。
 ※注釈や記載例,不要な図形は削除してください。